

# 社会が欲する人物像とは

## 【アブストラクト】

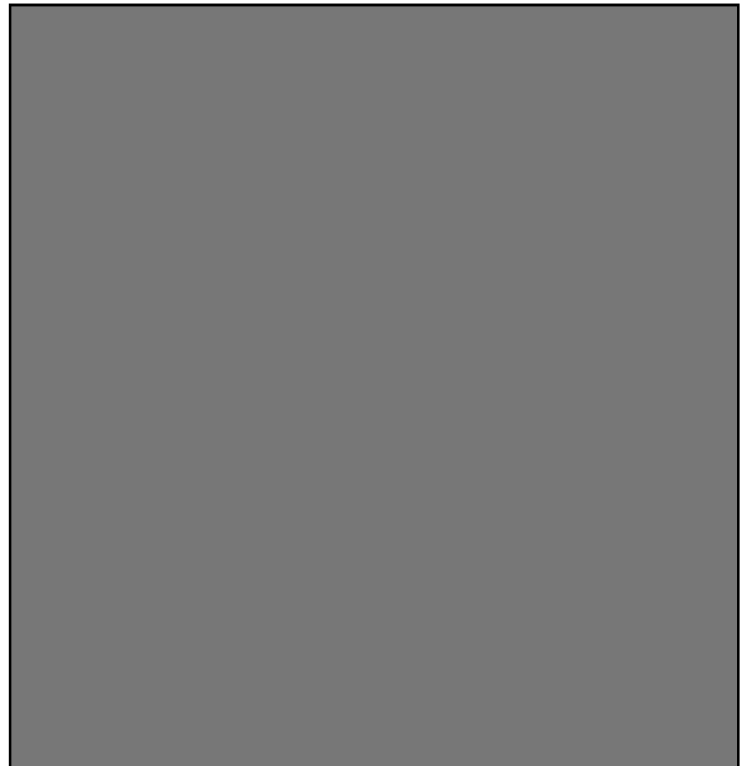
本研究は、これからの社会で活躍するうえで求められる能力を習得するためにはどのような学習にどのように取り組めばいいのかを、自校である宮城県仙台第三高校の教育カリキュラムを元にし、提案したものである。現在高校で使われている従来型のカリキュラムでは、国際性を高める学習に物足りなさを感じてしまう。そこで私たちは英語や異文化に関する学習に力を入れた独自のカリキュラムを作成することで現カリキュラムの欠点を補いつつも、国際性を高めることができる学習方法を模索した。また、今後社会発展の鍵となる「AI」をどう学習に取り入れていくかについても提案した。

キーワード: AI 教育課程 社会が欲する人物像 国際教養

## 【本文】

### 1.はじめに

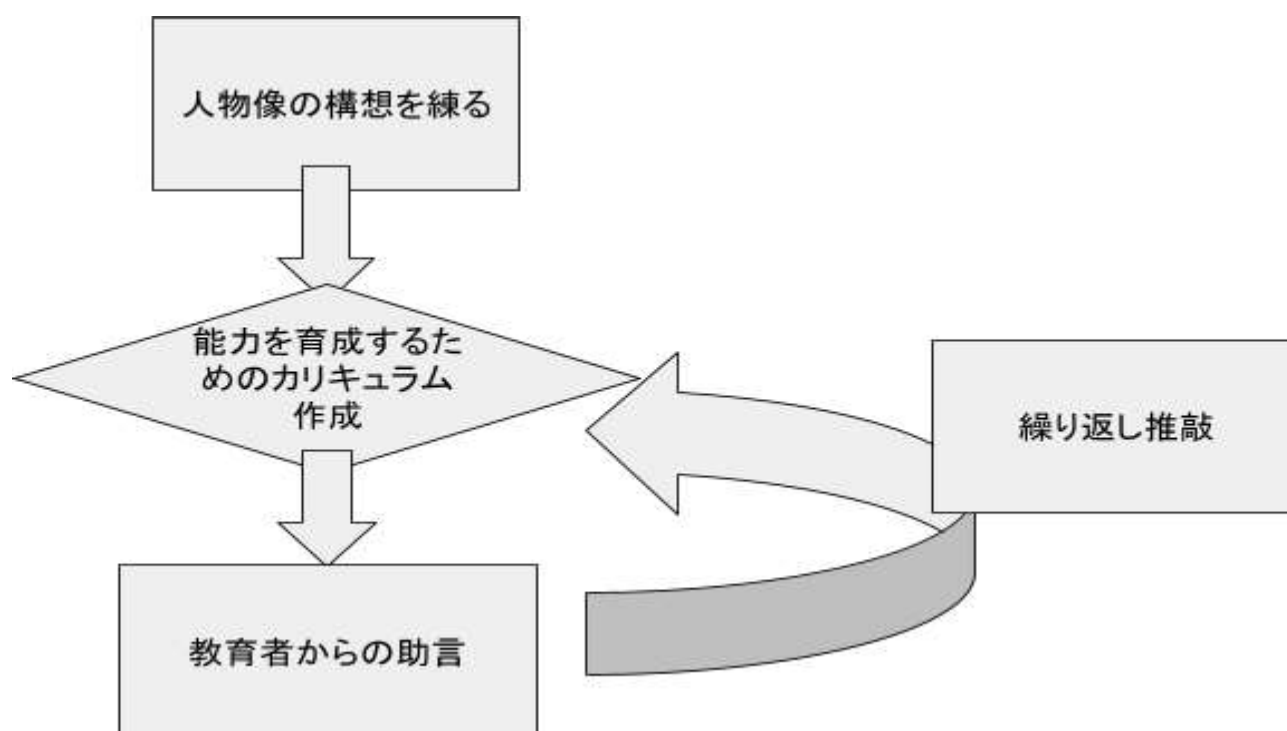
私たちの班では「日本の高校生が大学進学するための効率的な学習方法または効果的な学習指導要領とはなにか」というテーマで探究をしていた。しかし大学進学だけを見越した学習カリキュラムの作成を続けていくうちに、とめどなく求められる能力や社会情勢が変化し続ける現代社会において大切なのは、高校・大学での学習を通していかに社会で活躍できる能力を獲得できるかという考えにいたった。そこで探究テーマを「社会が欲する人物像とは」に変更し、社会の形成者としての素質をもった人物になるためにはどのような分野の学習を、いかに効果的に行うかを仙台三高の学習指導要領をもとに探究した。



### 2.研究方法

はじめに、日本のトップ層である高校・大学の教育理念や求める人物像、企業のアドミッションポリシーについて調べることで、社会が求めている人物像を自分たちのなかである程度確立させた。そこから、社会から自分たちに与えられている問題を読み解き、その問題を解決するための能力を育むためには、高校でどのような学習を行えばいいのかを学習カリキュラムの作成によって考えた。そして作成したカリキュラムを自分の先生や、教育に携わる有識者の方々に提示し、助言をいただくことでカリキュラムを推敲し、正確性を高めていった。

### 探究の大まかな流れ



### 3. 探究内容

はじめに、研究方法でも述べた通りに高校・大学、企業の学習理念やアドミッションポリシーを調査した。私たちは「渋谷教育学園幕張高等学校」「上智大学」「損害保険ジャパン株式会社」について調べ、「新たな視点や感性を持ち、社会や企業に革新的なイノベーションを起こす人材」や「幅広い知識をもち、多様な場所で活躍できる人」といった能力を社会が求めていることがわかった。以上のことをもとに、高校教育における新たな教育課程を作成し、提案した。また、自身の通う高校である宮城県仙台第三高等学校の発展的で、探究活動に富んだ教育カリキュラムを参考にし、より信頼性の高いカリキュラムの作成に励んだ。

私たちが提案する新教育カリキュラム

	1年		2年			3年		
	普通科	理数科	普通科文系	普通科理系	理数科	普通科文系	普通科理系	理数科
1								
2	現代の国語②	現代の国語②	論理国語②	論理国語②	論理国語②	論理国語②	論理国語②	論理国語②
3								
4	言語文化②	言語文化②	文学国語②	古典探究②	古典探究②	文学国語②	古典探究②	古典探究②
5								
6	地理総合②	地理総合②	古典探究②	公共 (STEAM ELSI) ③	公共 (STEAM ELSI) ③	古典探究②		
7			* 世界史③				SS数学Ⅱ⑥	SS数学Ⅱ⑥
8	歴史総合②	歴史総合②	日本史③					
9			地理③					
10	SS数学Ⅰ④	SS 理数数学Ⅰ⑤	公共 (STEAM ELSI) ③	SS数学Ⅱ⑥	SS理数数学Ⅱ⑥	SS数学Ⅱ⑤		
11								
12						生物学研究②		
13	物理基礎②						化学④	化学④
14								
15	生物基礎②	SS サイエンス総合④	SS数学Ⅱ⑥	化学基礎 / 化学④	理数化学④	地球学研究②		
16								
17	英語コミュニケーションⅠ②					倫理・政経②	物理 / 生物④	物理 / 生物④
18		英語コミュニケーションⅠ②						
19	英語表現②		地学基礎②	物理 / 生物②	理数物理 / 理数生物③	* 世界史③ 日本史③ 地理③	歴史 / 地理 倫理 / 政経③	倫理・政経②
20		英語表現②						
21	音楽Ⅰ②	音楽②	英語コミュニケーションⅡ④	英語コミュニケーションⅡ④	英語コミュニケーションⅡ④			
22								
23	家庭基礎②	STEAM フイライズ③				英語コミュニケーションⅢ④	英語コミュニケーションⅢ④	英語コミュニケーションⅢ④
24					英語表現②			
25	体育②	体育②	英語表現②	英語表現②		英語表現②		英語表現②
26								
27	保健①	保健①			体育③	国際教養②	英語表現②	国際教養②
28	SSデータサイエンスⅠ	SS理数 データサイエンス②	体育③	体育③			国際教養②	
29	イノベーション探究基礎②				保健①	言語学②		体育②
30		イノベーション理数探求基礎	保健①	保健①	STEAMフイライズ①	言語学①		
31	国際教養②	国際教養②	SSデータサイエンス①	SSデータサイエンス①	SS理数データサイエンス①			イノベーション理数探求Ⅱ①
32			イノベーション探究Ⅰ①	イノベーション探究Ⅰ①	イノベーション理数探求Ⅰ①	体育②	体育②	LHR①
33	言語学①	LHR①	国際教養①	国際教養①	国際教養①	特別探究①	イノベーション探求Ⅱ①	
34	LHR①		言語学①	言語学①	LHR①	LHR①	LHR①	
35			LHR①	LHR①				

主な変更として科目の変更があげられる。

#### 従来の教育課程からの変更点

従来	変更後
論理表現	英語表現
数学ⅠAⅡBCⅢ	SS数学
総合的な探究の時間	イノベーション探究
なし	言語学
なし	国際教養

#### 変更理由

##### ・論理表現⇒英語表現

現在私たちが行っている論理表現の授業とコミュニケーション英語の授業とでは、授業内容が被ってしまっていると考えた。具体的な例としては、論理表現の授業内での英語コミュニケーション活動が多くなり、受験英語の対策の時間がさかれてしまっていることだ。ここで考える問題は、論理表現と英語コミュニケーションの授業で内容が被ってしまっているということであり、英語の授業内で英語コミュニケーションをとることは全くの問題でないとする。堀野・市川(1995)は、英単語や会話知識を体制化して記憶する「体制化方略」、英語の雰囲気やイメージを掴む「イメージ化方略」、何度も繰り返して記憶する「反復方略」が高校生の英語学習において有効的であると示した。論理表現と英語コミュニケーションの内容が被っていることは、前述の「体制化方略」に反していることになる。よって、論理表現の授業内容を英文法や英文解釈などのリーディング・ライティング能力向上、つまりは受験にむけた英語の学習内容に変更し、現在行われている授業内容との差別化を図るために授業名称を論理表現から「英語表現」へと変更した。

##### ・数学ⅠAⅡBCⅢ⇒SS数学

参考元の宮城県仙台第三高等学校学習カリキュラムより、SS数学を今回のカリキュラムにも取り入れることで、数学の単元にとらわれない授業を行うことができる。この授業形態が私たちの考え・理想にあっていることから、そのまま取り入れることにした。

#### ・総合的な探究の時間⇒イノベーション探究

数学と同じように、参考元のカリキュラムをそのまま取り入れた。多彩な課外活動などを通して、多角的な着眼点や、科学的な探究力、高く説得力のある論理性、国際性を得ることを目的としており、社会から求められる能力を育成するのに適当だと考えた。

#### ・言語学(追加)

今回作成した教育課程には、従来の教育課程には含まれていない教科を2つ追加した。その1つとして「言語学」があげられる。「言語学」では英語の他に第2外国語を学ぶ。英語は世界共通語であり、日本でも学ぶべき第1外国語といえば英語というイメージがあるだろう。とはいっても2023年時点の英語の話者人口は約15億人であり、世界人口の80億人には遠く及ばない。このことより英語だけを学習し話すことができるようになっても、私たちの考える「社会が欲する人物」になることは難しい。現在の社会では「グローバル化」が進み、さまざまな国籍の外国人が日本でも見られるようになってきた。大学教育で既に取り入れられている第2外国語の教育を高校から導入することによって、自分の興味のある国の言語や、話者人口の多い言語の習得を促進し、より多様な場での活躍を期待できるだろう。以上のことから「言語学」を新たな教科として導入することとした。

#### ・国際教養(追加)

新しく追加した2つ目の教科として「国際教養」があげられる。「国際教養」ではさまざまな国の文化や歴史を学ぶ。各国の文化や歴史を学ぶ過程でその国の宗教的事実や歴史的背景を知り、理解を深めることが目的である。例えば、ある国の宗教史を学ぶことにより、その文化でタブーとされている行為や慣習を事前に認識することができ、さまざまな国籍の人との関わりが増えるであろう今後においてスムーズにコミュニケーションが取れるようになるであろう。「言語学」といった知識の勉強だけではなく、実際に外国人と関わりを持つ際のコミュニケーションの取り方の勉強も今後大切になると考えた。

各高校・大学または企業の教育理念やアドミッションポリシーや調べ、自分たちなりの教育過程を先生方からの助言をもとに何度も試行を重ねて考えるうちに、現在の社会は日を重ねるたびに国際色がだんだんと強くなっていることがわかった。今後社会から求められるのは、単に高い知能やコミュニケーション力を持つだけの人ではなく、高い国際性をも持ちえる人であろう。

#### AIを活用した学習

・ChatGPTやQuillBotといった生成AIによるチャットサービスや添削サイトを用いることで、より自主的で効率的な学習が可能になると考えられる。

#### 4. 考察

班としては国際性を高める学習を取り入れたことで、今まで海外や進化する世の中にと置いていた遅れを少し取り戻せたように感じた。しかしこのままの速度で日本の教育改革を行っても、時代の最先端には追いつくことができないのではとも感じた。その具体例として自分たちの世代から新しく受験科目として追加される「情報」があげられる。「情報」が追加されたことで情報化社会に対しての知識が育まれ時代へ一歩追いついたとの見方もできるが、自分たち以前の先輩たちの代では当然「情報」についての勉強などしておらず、時代に追いつくどころか置いてかれるばかりである。ここでいいたいのは日本の教育形態はすでに遅れを取っているという自覚のもと改革を進める必要があるということだ。現在進行形でグローバル化が進んでいくであろう世の中で私たちのテーマでもある「社会が欲する人物像」はより国際的な性格を持つと予測できるので、より革新的で大幅な教育改革が必要なのではと考えた。

個人としては「情報」が追加されたり、AIが実際の授業で使われるようになったのは、遅れがあるとはいえとてもいい傾向だとも思った。日本で英語の教育がなかなか発達しない理由としては、受験だけを目標に学習を進めているのと、アウトプットする場が少なすぎるからだと考えた。そのためにはやはり論理表現とコミュニケーション英語の内容区別化を行い、「知識の学習」と「コミュニケーションの学習」の2分野に分けて力を入れるべきだと思う。またAIを取り入れた学習は環境の整備が整っていなかったり、単純に慣れていないなど、早急に取り入れることは難しいかもしれないが、班の意見で述べた通り遅れを取り返すためにも生徒が主体的に付き合っていくべきだと思う。

#### 今後の課題

・班も個人も共通して、このカリキュラムを実現するためには、国が指定した各教科の単位数を必ず履修しなければならないという制度に相對しなければならぬ。私たちだけでは実現が不可能なため、まず日本の高校生に教育に対する関心、問題に關しての意識付けをすることが必要になるだろう。

## 5.まとめ

この探究を通して、社会が今求めている人材を知り、自分たちの教育の問題点と向き合うことができた。この経験は大学生活にもつながる財産になるであろう。「多様な場、つまり国際的に活躍できる能力を習得するためには」ということに焦点を当てて探究を進めてきた。日本だけでなく海外の学校にも目を向けどのような取り組みを行っているかを調べていると、やはり日本の教育は遅れているのかと感ずることも多々あり、その度にこの探究が本当に役に立つものになればと、たくさんの思考の巡らせて考える過程はとても楽しかった。軽い気持ちで始めた探究が、いつしか京都大学という日本最高峰の大学の院生とセッションするまでのものになり、とても貴重な体験をさせてもらったとともに自分たちの考えの詰めの甘さを実感させられた。さまざまな方からの助言や話し合いをもとに出来上がった独自の学習カリキュラムは、国際的に活躍できる能力を養いたい、異文化の理解を深めたい、AIを活用したいという目的を達成するための学習方法を提案できたと思います。ただカリキュラムを作成したからといって、私たちの手で実用化を目指すのは残念ながら困難であると思う。私たちの探究はここで終わりを迎えてしまうが、これから探究に臨む後輩たちや教育に携わる誰かに届き、より精査され、信頼性を高めたものを社会に提示して、日本の教育にほんのすこしでも革新をもたらすことができれば本望である。

この探究を進めるにあたって、教育カリキュラムを参考とさせて頂いた宮城県仙台第三高等学校様、そして繰り返し助言をくださった先生方に感謝を申し上げます。そして、貴重な時間を割いて本探究に關しての話し合い、助言をくださった、京都大学院教育学研究科教育学部教育方法学コースの、市橋千弥様、助教授の久富望教授に感謝を申し上げます。

## 6.参考文献

### 参考文献

1)堀野緑・市川伸一 1997 高校生の英語学習における学習動機と学習方略 Japanese Journal of Educational Psychology, 45, 140-147

[高校生の英語学習における学習動機と学習方略](#)

2)宮城県仙台第三高等学校 教育課程 2022年3月

[教育課程表 - 宮城県仙台第三高等学校](#)

3)旺文社 教育情報センター 2018年5月 高校「新学習指導要領」は教え方改革

[高校「新学習指導要領」は教え方改革](#)